

2017年12月1日

監査役会通信(No.20)

社外監査役 堀口基次

「これぐらいなら」が命取りに

今年も、多くの不祥事に関するニュースがあり、取締役会において何回か不祥事についての報告をさせていただきます。

直近では、10月頃から発覚した神戸製鋼所の製品検査データ改ざん問題による不祥事。不正の裾野はどこまで広がり、いつまで時をさかのぼるのか。データの書き換えなどの不正は国内外に及び、関わった管理職は数十人に上るといわれています。10年以上前からの不正もあるようで、再発防止策がつけられ、たあとでも繰り返し不祥事をおこしており、組織ぐるみの疑いが強いとの指摘がされています。

また、日産自動車では、自動車の完成検査工程に無資格の社員が携わっていたことが発覚し、国内向けの車両が一時出荷停止となりました。納品会社である下請け関連会社が多数あり、顧客対応している販売会社がたいへんな状況になったという報道もされています。

また、スバルにおいても、30年前から無資格の社員が携わっていたことが判明し、その結果リコール(無料の回収・修理)による対象台数は25万5千台になる見通しだと発表されています。しかし、こういうことをしたらたいへんな問題になるという認識がなかったまたは薄れていたようですとの報道もありました。先週は三菱マテリアルの子会社、東レの子会社でも製品データの改ざんがみつかっています。

どこの会社も、法令遵守、企業統治の重要性はわかっているはずだし、態勢も整えてきたはずです。それでも不正が絶えません。

納期を守り、生産目標を達成するというプレッシャーが先行し、不正やむなしという業務の進め方、不正をしていたらいつかかならず発覚し、たいへんなことになるということを知りながら、毎日仕事をしている時の心境はいかがなものでしょうか。質の高い仕事は望めません。

不祥事のニュースを聞くたびに自分が渦中の責任者だったらどう行動をとるだろうかといつも悩まされます。ちょっとした誘惑が不正への抵抗を鈍くさせる、人間の弱さだと思います。

本人は「これぐらいなら」という思いだったとしても、その小さな弱さの積み重ねが、命取りとなり、会社を危うくしています。

当社にも多くの法規制、医薬品業界における決めごと、社内外におけるルール等守らなければいけないことがたくさんあります。それぞれがそのルールをしっかりと理解・吸収・遵守し、常に当社が定めている

「コンプライアンス行動規範」に則り行動しているかどうかを常に念頭におき確認・実行していただくことを望みます。